

# 用途開発、販路 開拓進める

備後撚糸「水撚り

製法」の和紙糸

備後撚糸（福山市、光

成猛社長）は、独自開発

した「水撚り製法」による和紙糸の用途開発、販路開拓を進めている。用途開発では浴用タオルやデニム、バッグなどから、セーター、雑貨小物、インテリアなどに広

げる。

和紙糸は、軽さやエコロジー性への評価が高まっているが、スリット状の和紙を撚るため、強度や糸が角張るのが課題。同社は特殊溶液の開発や長年の撚糸技術ノウハウを組み合わせ、綿番手で30〜50番手の糸を開発した。特許も得ている。

今年初めに京都のデザイナー、塩谷栄一氏と取り組み、セスト御池で期間限定ショップを開設した。和歌山の森下メリヤス、両国の中橋莫大小、中目黒のアパレルメーカーのファブフォーなどと組み、今秋冬物からニット用途も開拓する。

豊岡のバッグメーカーと連携、和紙糸素材を柿渋染めや備後絣調で表現したバッグなどの開発も進めている。ソファードのインテリアメーカーやノベルティグッズ関連企業からの問い合わせも少しずつ増えている。